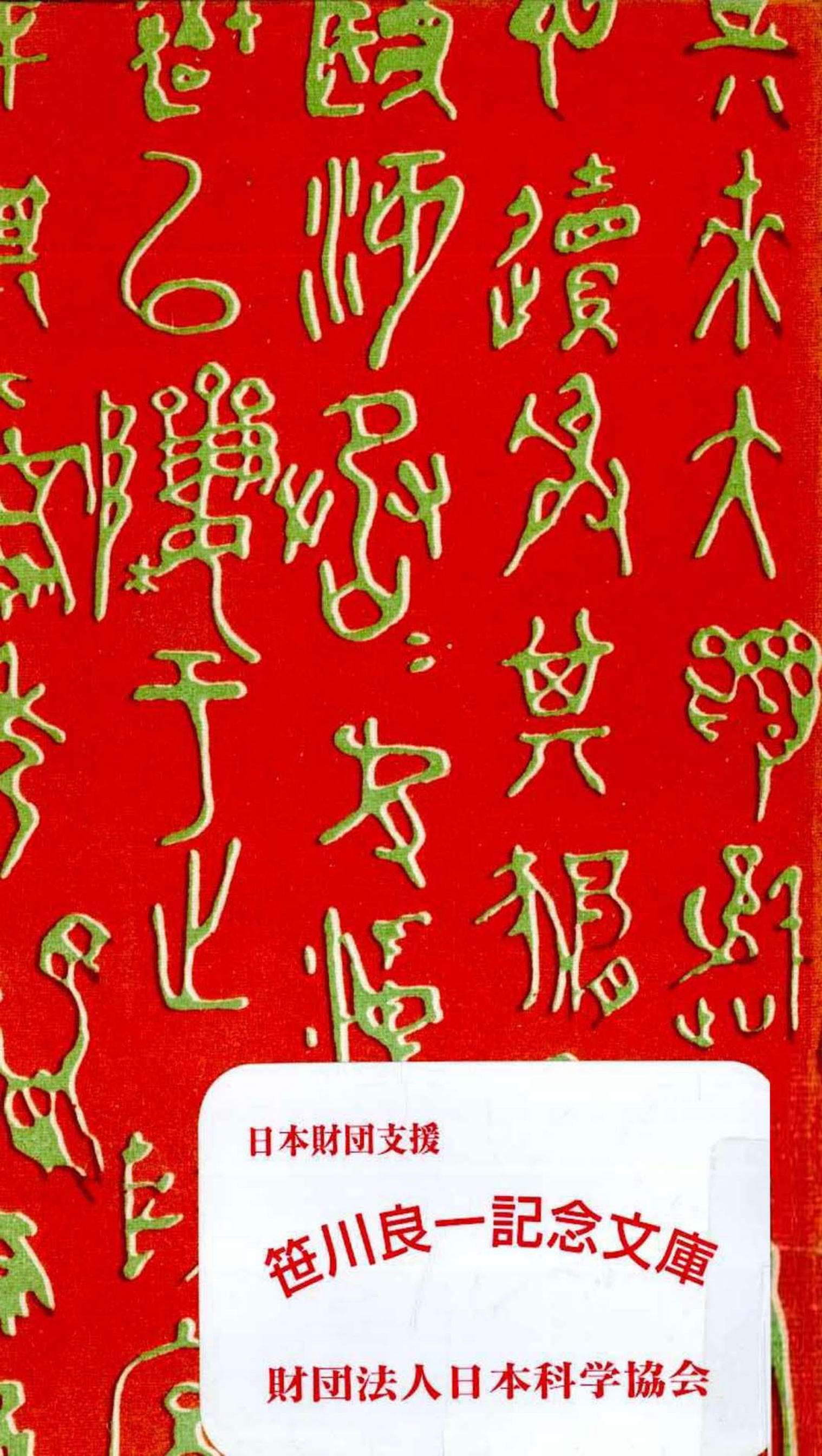




日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

漱石全集
第十九卷

文學評論

全三十四卷 第二十一回配本

昭和三十三年三月二十七日 第一刷發行

© 漱石全集 第十九卷

定價 一五〇圓

著者

夏

目

漱

石

東京都千代田區神田一ツ橋二丁目三番地

發行者

岩

波

雄

二

郎

東京都青梅市根ヶ布三八五番地

印刷者

山

田

一

雄



發行所

東京都千代田區
神田一ツ橋二ノ三

株式會社

岩

波

書

店

落丁本・亂丁本はお取替いたします

精興社印刷・三水舎製本



明治四十一年十二月撮影

目次

文學評論

三

解 說
注 解

三九三

四〇五

文
學
評
論

序

此講義は余が大學在職中に作つた儘、長く放つてあつたのを、春陽堂の乞に應じて今度公けにすることにした。はじめ出版の承諾をしたのは一昨年夏の頃と記憶して居るが、原稿を淨書して呉れる人に色々の故障があつたのと、余の多忙なとで、つい延び／＼になつてとう／＼豫定の期日を後らして仕舞つた。去年の暮書肆の催促を受けて、漸く訂正に従事し出してから約一ヶ月の間は専心此講義にばかり掛つてゐた。それで全部の訂正を終つた上に約半分程は書き直したが夫でも余の意に滿たぬ所は澤山ある。

大學で講義をやる當時は、此式で十八世紀の末浪漫的反動の起る所迄行く積りであつたが、半途で辭職し

たため、思ひ通りに歩を進める事が出来なかつた。此講義の中に評論した作者は、皆當代の大家であるけれども、或は其一人／＼に費やした頁の數があまり多過ぎはせぬかとの難もあるだらうと思ふ。然し自分の主意は單に是等の諸家を論ずるのでなくて、是等の諸家を通じて、余の文學上の卑見を述べる積なのだから其邊は讀者に斷つて置きたい。

此講義にはアヂソン、スウィフト、ポープ、デフォーの四家を評論してあるが、其評論の式は四家ともに各態度を易へて多少の變化を試みて見た。其成功と不成功とは固より余の云々すべき點ではない。

此講義を公けにするに就て、森田草平、瀧田樗陰兩氏の補助を受けたのは余の感謝する所である。

明治四十二年二月

夏目漱石

目次

第一編 序言 一五

専門の知識——十八世紀と云ふ語——文學史は科學か
 ——科學と文學——文學に就ての一のコンフュージョン
 (混雜)——鑑賞的態度と批評的態度——單なる鑑賞的態度の不備——鑑賞的情緒の分解——『ハムレット』の例
 ——批評的鑑賞的態度——三態度の比較——二個以上の作物に對しての三態度——文學史に對しての三様の態度
 ——文學の批評家及文學史家は科學的態度を除却する事能はず——今日迄の批評家及び史家の缺點——余の態度——請賣りの批評に就て——偶然の暗合と必然の暗合
 ——趣味の普遍性に就て——其二種——ダンテとブージルの例——『ブラツク、チュエリツプ』と『ユヌ、ギ』の例——複雜になる結果——普遍を離るゝ結果——言語——

其濃淡と調子——之を呑み込まざる弊——わが標準を捨てる事——吾人が批評的鑑賞の態度を以て外國文學に對する二法——第一法——ポーブ及び『オシアン』の例——第二法 一五—四五

第二編 十八世紀の狀況一般 四六

歴史小説の例——社會的要素としての文學——其重要な度合——デレマ——スペンサーとボスウエルの例——此編を設けたる趣意 四六—五〇
 一、十八世紀に於ける英國の哲學——哲學者の考——ヒュームの例——哲學者と社會は全然沒交渉にあらず——神の例——實際に關係ある哲學——儒者の例——ロツクとバークレーとヒューム——ロツクの天賦觀念説の駁論——レスリー、スチーヴンの所見引用——バークレーの唯心主義——何故?——彼の經驗的方面——ヒュームの所謂イゴー(「我」)——因果の念も習慣なり——經驗の區域以外に應用すべからず——ヒュームと十八世紀の英

國人の態度——自然神教者……………五〇六

二、政治 王黨民黨——劇場内の黨派——ブースの事
——脚本の檢閲——黨派的服裝——無教育者の政治論——選
舉——當時の腐敗——ホーガースの畫——婦人の奔走——議
員買収……………六六七

三、藝術 ハンドルの音樂——藝術愛好會——美術協
會——ホーガース——其畫風——續き畫——*Marriage à la
Mode*——*Rake's Progress*——*Harlot's Progress*——ホー
ガースとフヒールダング——レノルツと肖像畫——其畫
風——肖像畫の繁昌——物質的膨脹——肖像畫と性格描寫
——ウイルソンと風景畫……………七四八〇

四、咖啡店、酒肆及び俱樂部 咖啡店と得意客——
『タトラ』發刊の辭——アデソンと咖啡店——ベツド
フォード咖啡店——セント、ゼームス咖啡店——酒肆——
ジョンソンと酒肆——客曳き——俱樂部及び其種類——ス
クリブリラス俱樂部——キットカット俱樂部——ジョン
ソンと俱樂部——文學俱樂部……………八〇八七

五、倫敦 百五十年前——道路——to give the wall
——ポスト(柱)——看板——軒燈——辻番——轎椅子——警察の
不行届——シエンストーンの手紙——ジョンソンの『倫
敦』……………八七九三

六、倫敦の住民 日常生活——ボー——婦人の生活——
ベザントの敘述——青靴下——中流生活——一般人の特性
——(1)野卑——其原因——(2)酩酊——ジン——(3)賭博——ホーガ
ースの畫——(4)決闘——(5)服裝——鬘、帽子——彼等の贅澤
及び法外……………九二二三

七、娛樂 (1)喫茶園——(2)假面會——(3)芝居——亂雜——
現今との相違——席——ガリツクの改良——(4)フェア——
バーソロミュー市——サザーク市——(5)ヘルス、リゾー
ツ——バス——ボー、ナツシ……………一二三一二五

八、文學者の地位 アン期の文學者——スチーヴン
の解釋——ジョージ一世時代——個人的保護——『世界の
市民』中の諷刺——讀書界——貸本屋——マコーレーの敘
述——センツベリーの異見——ボイスの例——ジョンソン

の書翰—スキフトとの比較……………一五—一四〇
九、倫敦以外地方の狀況 交通の不便—郷土—坊主……………一四〇—一四三

第三編 アヂソン及びスチールと常識文學……………一四四

十八世紀文學史の始め方—一七〇〇年を基點とする—當時の文學者の團體—スチーヴンの説明—自由と學問と文學—新聞の歴史—『タトラ』『スペクテーター』『ガーディアン』—其性質—ジョンソンの敘述……………一四四—一五五

一、常識 (イ) 不可思議を容れず—『マーザの幻夢』の例—其評價—(ロ) 都會的空氣及其意義—都會人—煩瑣—漫然生活—寄木細工—満足—得意—非常識の常識—風俗志—性格描寫—『サー、ロジャー、ド、カブーレー』—(ハ) 中庸—帽子の例—女子男裝の例—決闘の例……………一五五—一七二
二、訓戒的傾向 廣義に見たる訓戒の意義—アヂ

ソンの訓戒—其非藝術的なる所—善惡の評價—其區域—アヂソンの平面的眼界—彼の『チエヴィ、チエーズ』の評し方……………一七二—一八〇

三、ヒューモアとキツト 解釋—常識とヒューモア—サー、ロジャーの例—家具師の例—アヂソンのヒューモア論—彼のキツト論—カウレーの例—アヂソンのキツト—「サラマングー」の例—廣義に於けるキツト—「扇運動」……………一八〇—一八九

アヂソンとスチールの人格と作物—二人の交情—二人の性情—其作風—ミントーの評……………一八九—一九三

第四編 スキフトと厭世文學……………一九四

諷刺家としてのスキフト 文學は趣味の表現なり—趣味—好惡と眞偽—好惡の意味の複雑なること—好惡を含みたる文學的作物の類別—滿足の文學—不滿足の文學—兩者類似の場合—區別の索引—厭世文學の意義—不滿足文學の類別—正面的—側面的—同

情的——スキフトの不満足——スキフトの不満足と十八世紀の時代精神——厭世文學の起る時代——アヂソンとスキフト……………一四二—一四六

スキフトの傳記研究の必要 普通傳記の陷缺——スキフトの生涯にあつて著しき事實——一、幼時の怠慢孤獨——二、自尊心——剛情——其例——『ドレーピアの消息』——三、俠氣——其例——四、諧謔——其例——五、病氣——六、スキフトと婦人——『ステラへの日誌』——ヴネツサ——七、彼の公生涯——愛國者——以上の諸項の綜合的觀察——其斷案——諷刺はスキフトの天性なり……………二〇六—二一〇

『桶物語』 梗概——其諷喻——比喻的表現の三種——專斷的なる比較——其價值——諷喻として『桶物語』の缺點——第二の困難——其例——單獨に見たる比喻の面白味——其例——諷喻の二面——其一面の比較的無價值なる事——スキフトのスターンに似たる所——スキフトの用語の卑猥なる事——其例……………二二〇—二四〇

『ガリヴァー旅行記』 梗概——リ、パット——プロブダングナツグ——ラピューター——日本——フーインムス——『ガリヴァー』の批評……………二四〇—二四三

(一)『ガリヴァー』の『桶物語』に優る理由——其例——小人國王の救——大人國へ渡る時の感想——普遍的興味を缺く諷喻——其例……………二四三—二四九

(二)『ガリヴァー』の諷刺とアヂソンの諷刺との差——(a)廣狹深淺の差——(b)彼等の態度——淺薄と深刻の辨——文學の讀者——文學と娛樂——愉快の意義——スキフトの作の愉快にして同時に又不愉快なる所以の説明——アヂソン、スキフト二人の與ふる愉快の比較——及び愉快不愉快の對照——アヂソンの書きたる俱樂部の話とスキフトの書きたる敘述との對照……………二四九—二五三

(三)冷刻なる犬儒主義——諷刺の種類——諷刺其物を目的とする諷刺——諷刺を受くる本人の利害に無頓着なる人——其種類——スキフトは如何——彼の特色……………二五三—二五五

(四) 餘所々々しき書き振——詩的なる箇所の少なき事——其例……………二六五—二六九

(五) 老巧——グレイのボスウエル評——毒惡なる諷刺と平易なる表現……………二六九—二七〇

(六) 普通の人にあつて諷刺は變態なり——スキフトにあつては常態なり——其例……………二七〇—二七四

(七) スキフトの想像——コールリツヂとの比較——スキフトの想像力に就いて注意すべき二點——數字的敘述……………二七四—二八〇

第五編 ポープと所謂人工派の詩……………二八一

ポープに對する一般の批評——著者の立場——ポープの作物一覽——一、『牧童歌』——二、『批評論』——三、『髮盜人』——四、『キンゾーの森』——五、『ほまれの殿堂』——六、『アベラードに送れるエロイザの消息』と『亡き薄命の女を弔ふ歌』——七、ホーマーの『イリアッド』——八、同『オデセイ』——九、『ダンシアツド』

——一〇、『尺牘集』——一一、『人間論』——一二、『ホレ——スに倣ひて』——以上の梗概の必要なる所以——英國批評家の批評の日本人に適せざる理由——著者の賞翫的態度を離れて梗概より出立する理由——文學の四要素及び其批評——ポープに就いて著者の適用したる分類法——ポープの詩に於ける知的要素といふ意味——ポープの詩の分類——此分類より出づる結論……………二八一—二八六

一、ポープの詩には知的要素多し 其評價——女を撰ぶときの例——ポープの失策——詩の趣味に於て日本人と英人とポープとの比較——ポープの詩觀は全然誤りなるか——彼の崇拜者——彼の主張——彼は彼の主張に於て成功せりや——ポープの句の人口に膾炙する量多き事——パラドックス——其説明——(1)ポープの句の今代に傳はるものは概して知的要素より成る——(2)其内容の通俗普通なる事——(3)陳腐なるものが何故に残るか——ヒロイツク、カプレット體——彼の成功——「正確」の詩人——其弊——時勢とポープの作——エリザベス時代と

ポープ時代——人格とポープの作——彼の性行……………

二九六—三〇四

二、ポープの詩に現はれたる人事的要素 其例——其表現法——彼の技巧は他の方面に於ても同一の程度なり——浪漫的作物とポープの人格——時代の人格に及ぼしたる影響…………… 三〇四—三〇九

三、ポープの詩に現はれたる感覺的要素 自然に對する感じ——古典的の用語——古典的の用語と人爲の程度——これを使用する二意義——單純なる模擬にあらず——聯想——ポープと吾邦の文章——古典的聯想を主としたる詩句の興味——其例——謠曲との比較——咏はれたる天然の性質——魚の敘述——ポープと自然——時勢の壓迫——ポープと庭園——タイモン別墅の敘述……………

三〇九—三二六

四、超自然の材料 ポープ以下數家の特色——超自然の解釋——自然界即超自然界と自然界非超自然界——內的外的の區別——外的の弱點——描寫の精細より起る

外的超自然の滑稽——其理由——『イリヤツド』と『失樂園』の例——幽靈——ハムレットとバンコー——『クリ

スタベル』中の變怪——超自然を滑稽ならしむる一法は明瞭に敘述するにあり——其理由——動機は遊戲的活動にあり——故に滑稽なると共に美的なり——ポープの超自然の特色——ポープと沙翁——沙翁の例——ポープの類似する所——『髮盜人』の中にあらはれたる土水火風の四精——其精細なる例——沙翁と異なる所——兩詩人の生息せる時代の比較——都會的臭味の超自然素——其成效——デフォーの『ギール夫人の幽靈』——其ポープと似たる所——ポープの批評概括…………… 三二六—三三六

『ダンシアツド』 時代の反射——個人的特色——個人的の解釋——尤も極端なる個人的描寫は非文學的なり——かゝる描寫の行はるゝ時代——『ダンシアツド』出版の顛末（コートホープの敘述）——『ダンシアツド』は個人的諷刺なり——スキフトの諷刺と『ダンシアツド』と異なる所——『ダンシアツド』中の敘述——其警

句——當時文壇の亂雜——デニスの例……………三三六—三四五

第六編 ダニエル、デフォーと小説の組立……………三四六

デフォーの作品 デフォーの作品と時勢——マツソン教授の説——デフォーは崇高の反對極にあり——勞働の小説——生れながらの記者兼奮闘家——經歷——彼の文學的作物と其攻撃——詩と散文——沙翁とデフォー——デフォーの作は讀んで冗漫の感あり……………三四六—三四〇

小説の組立 統一の意味——有機的統一——デフォーの缺點——世の中は或は冗漫なるべし、然かも觀察に冗漫の必要なし——結末の辯……………三六〇—三六五

デフォーの作物の構造の實例一般——綜合的概括——生死と統一——死は藝術的の終にあらず……………三六五—三七〇

始より終に達する筋道——興味とは何ぞ——性格の興味——事件の興味——景物の興味——事件とは何ぞ——偶然の出來事と必然の出來事——纏まりたる兩極の比較價值——性格の活動として比較的纏まり得る事件は純

乎たる形式に於て存在し難し——性格の活動として比較的纏まりたるものの様式——(一)性格の發展より生ずる統一——(二)全性格の鈍き發展より生ずる統一——(三)性格の一所に停住する統一——以上の特色及び第三の統一に就いて……………三七〇—三七六

デフォーの作に以上の統一なし『ロビンソン、クルーソー』——『クルーソー』の統一——『クルーソー』の統一には加速度なし——『クルーソー』の統一には漸移の興味と之に伴なふ變化の興味なし——『クルーソー』の統一には變化の興味なし——モール、フランダースの例——事件の重複——昔の讀者——デフォーの工夫——場面の變化——其例數種……………三七六—三八二

デフォーの文章 文體の無神經——其不都合——スチーヴンソンとの比較——『騎兵の記録』中より引用せる例——兩家の優劣の説明——スチーヴンソンの解剖——デフォーの乾燥なる所以——『イノツク、アーデン』——デフォーは實用の器械なり——デフォーと英國人——デ